第1回　沼津市新中間処理施設整備基本構想

検討委員会　資料

日時：　平成25年６月５日（水）

場所：　沼津市役所８階801会議室

目次

１　新中間処理施設の整備について

２　基本構想の位置付け

３　検討委員会について

４　沼津市のごみ処理の現状と目標

５　施設整備に向けた課題

1　新中間処理施設の整備について

「中間処理」とは

埋立、海洋投入処分又は再生を除いた全ての処理

↓

つまり

- ごみの焼却
- リサイクルのための破砕、圧縮、梱包

などが、これにあたります。

中間処理施設の整備の目的

＜耐震性の確保＞

　現在の清掃プラント（焼却施設）は耐震性が無いと診断されており、早急に対策が必要。

＜循環型社会の実現＞

　焼却で生じる熱を利用した発電等、資源・エネルギーの有効利用。

＜安心・安全＞

　新しい技術による環境負荷の低減や、災害時の備え。

施設整備予定地

■ 清掃プラント
★ 中継・中間処理施設

＜施設整備予定地＞
現在の清掃プラントから旧衛生プラントまでの用地を一体として活用。

整備を検討する施設（案）

◆ 焼却施設

◆ リサイクル施設

（缶、びん、ペットボトル等）

◆ 環境学習施設

◆ 余熱利用施設

２　基本構想の位置付け

基本構想の位置付け

一般廃棄物処理基本計画

ごみ量の予測
減量の目標・施策

↓

施設整備基本構想

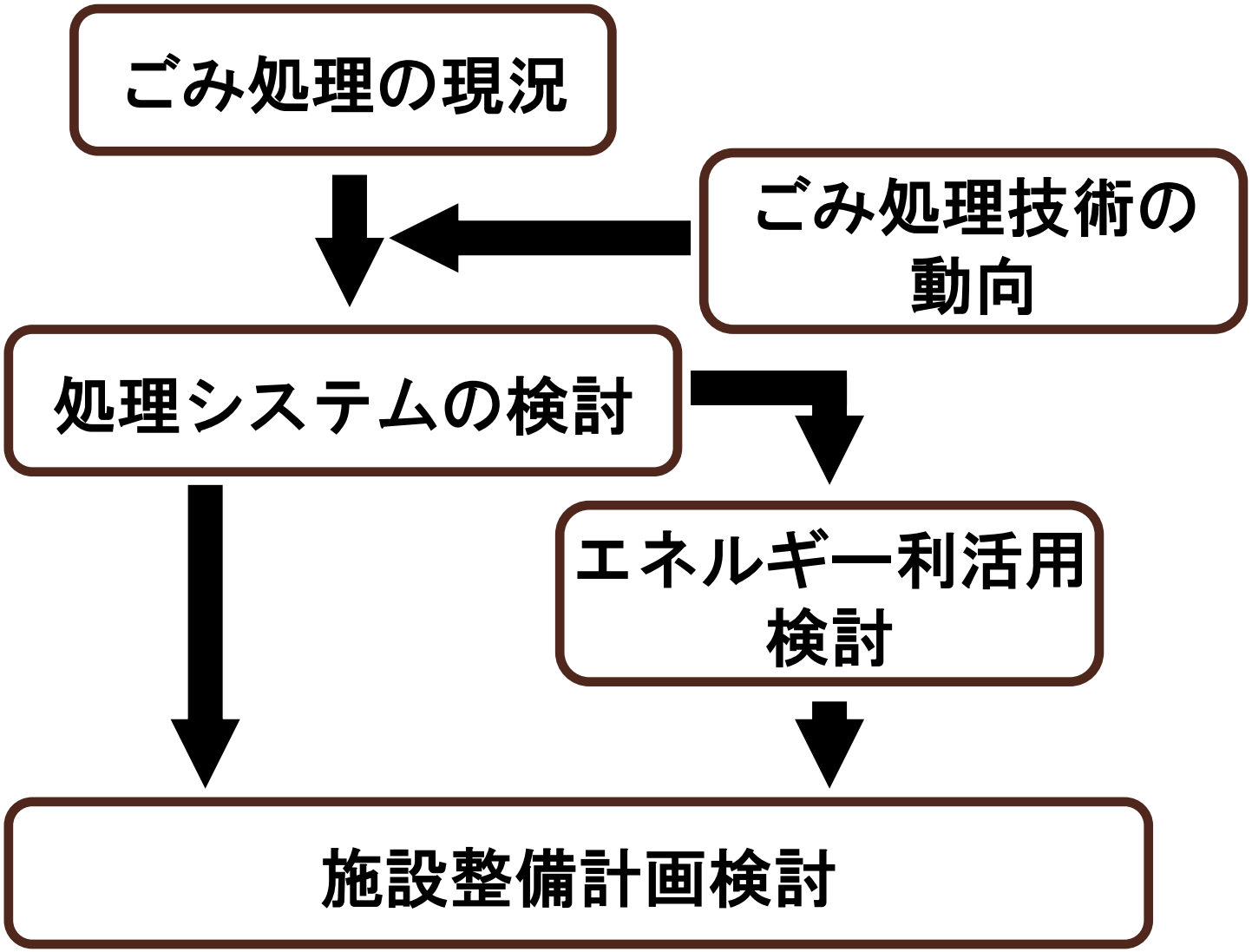
施設整備の方向性
処理システムの
整理、検討

↓

施設整備基本計画

施設配置や施設
種類、規模の決定

基本構想検討の流れ



基本構想の内容 ①

＜ごみ処理の現況＞

◆ **ごみ処理の流れ（フロー）**

分別⇒収集⇒処理、処分

◆ **ごみの量**

何を　どのように　どのくらい

（種類）　（方法）　（量）

◆ **ごみの質**

紙、生ごみ、プラスチック等、

ごみの割合（組成）

基本構想の内容 ②

＜ごみ処理技術の動向＞

◆ ごみ焼却の方式

　ストーカ炉、溶融炉　等

◆ リサイクルの方式

　従来の缶、ビン、ペットボトル等だけではなく、小型家電や生ごみ、剪定枝等、新たなリサイクルの拡大。

基本構想の内容 ③

＜処理システムの検討＞

◆ **ごみの分別**

何を分けるか

◆ **処理方式**

分けたごみをどのように処理するか

分別 → 処理（施設） → リサイクル または 埋め立て

基本構想の内容 ④

＜エネルギー利活用検討＞

◆ **熱回収量の予測**

焼却するごみの量、質から予測

◆ **利活用の方法**

発電（施設での利用、売電）

温熱利用（プール、温浴施設）

基本構想の内容 ⑤

＜施設整備計画検討＞

◆ **整備スケジュール**

計画・調査⇒設計⇒建設⇒解体

◆ **事業方式**

公設公営、ＰＦＩ

◆ **財政計画**

資金調達

３　検討委員会について

検討委員会の役割

市長

素案
課題

提言

沼津市新中間処理施設
整備基本構想検討委員会

検討委員会のスケジュール

年	平成25年							平成26年		
月	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
検討委員会	●		●	●	●	●		●		
構想素案作成	→	→	→	→	→	→	→	→		
パブリックコメント									→	→
基本構想策定										●

検討委員会の開催予定

第１回：委嘱、現状説明、
　　現在の処理施設見学

第２回：他市先進施設視察（日帰り）

第３回：課題の検討

第４回：課題検討結果の整理、
　　基本構想素案の検討

第５回：意見・提言のまとめ

４　沼津市のごみ処理の現状と目標

現在のごみの分別

燃やすごみ

・生ごみ　・紙くず
・木くず
・衛生処理が必要なもの

プラスチック製容器包装

・トレー　・ボトル
・発泡スチロール
・レジ袋　・カップ

資　源

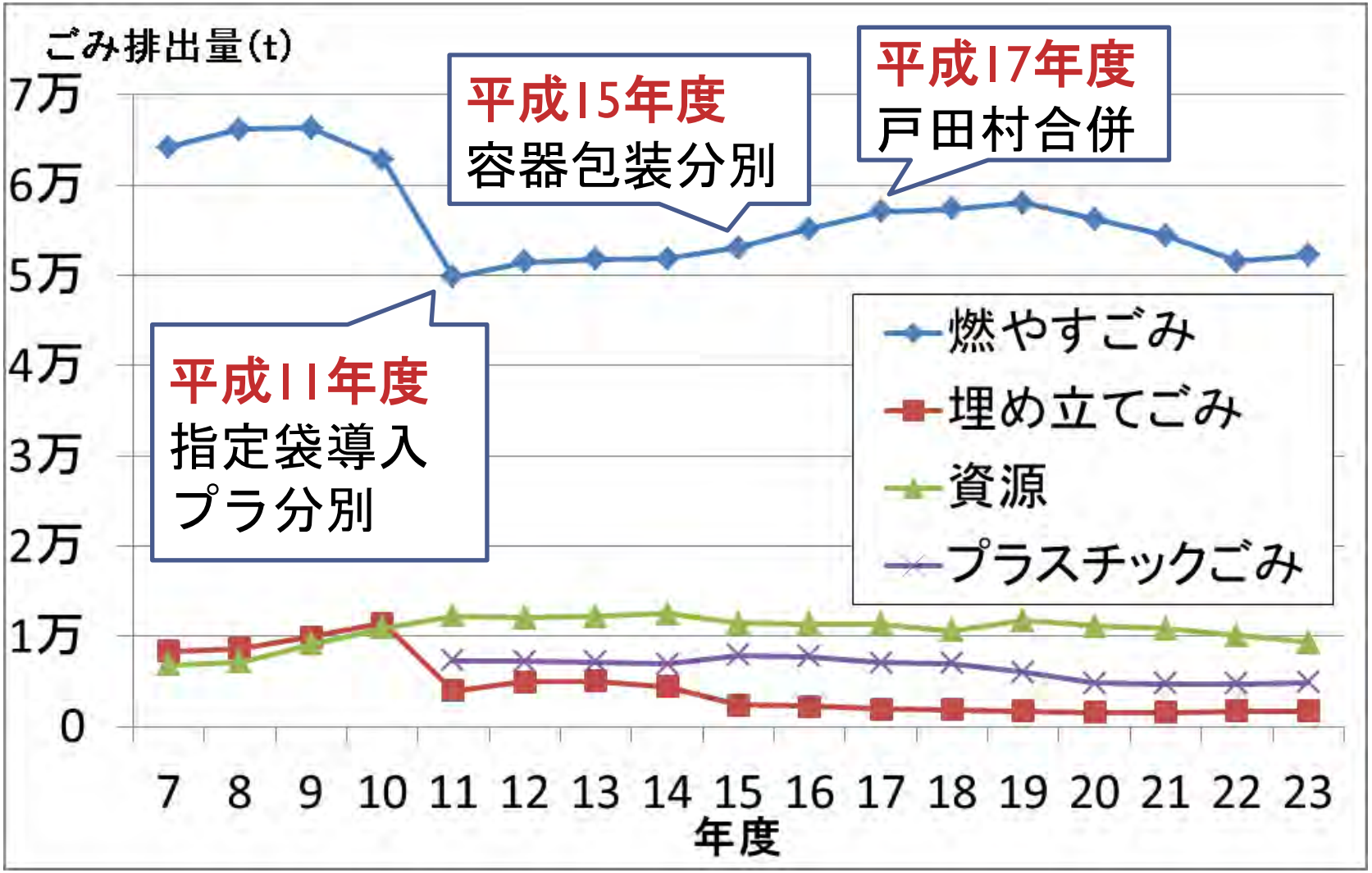
・缶類　　・びん類
・金属類　・古紙類
・古布類　・乾電池
・ペットボトル

埋め立てごみ

・せともの・ガラス類（①類）
・焼却粗大ごみ（②類）
・熱源利用プラスチックごみ（③類）
・蛍光管

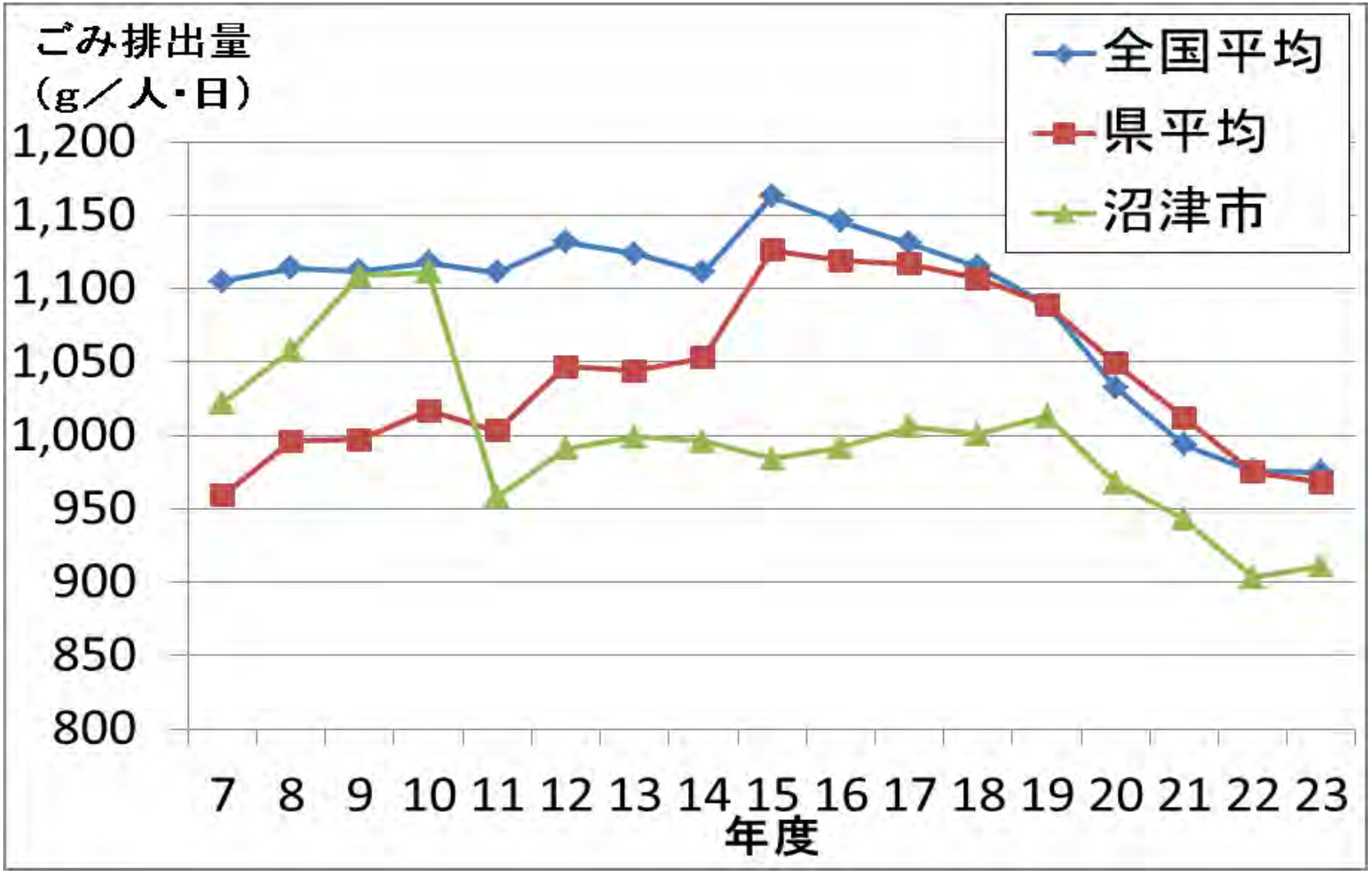
ごみ量の推移 ①

◆年間ごみ排出量の推移



ごみ量の推移 ②

◆１人１日あたりごみ排出量の推移



ごみ量の比較

◆全国の動向との比較（H23実績）

		国	静岡県	沼津市
ごみ量	生活系（g／人日）	695	707	642
	事業系（g／人日）	280	261	260
	合計（g／人日）	975	968	902
リサイクル率（%）		20.4	21.8	27.2
最終処分率（%）		10.6	6.8	4.0

一般廃棄物処理基本計画における目標

目標：排出量10%削減を目指す

家庭系ごみ：１人１日当たりの排出量（ｇ／人・日）の10%削減

事業系ごみ：年間排出量（ｔ／年）の10%削減

※ 基準年度：平成21年度

ごみ排出量削減の目標 ①

◆１人１日当たりごみ排出量（家庭系）

年度		H21		H32（目標）
ごみ排出量（g）	燃やすごみ	455	10%削減	407
	埋め立てごみ	15		14
	資源（集団回収除く）	101		93
	プラスチックごみ	59		53
	計	630		567

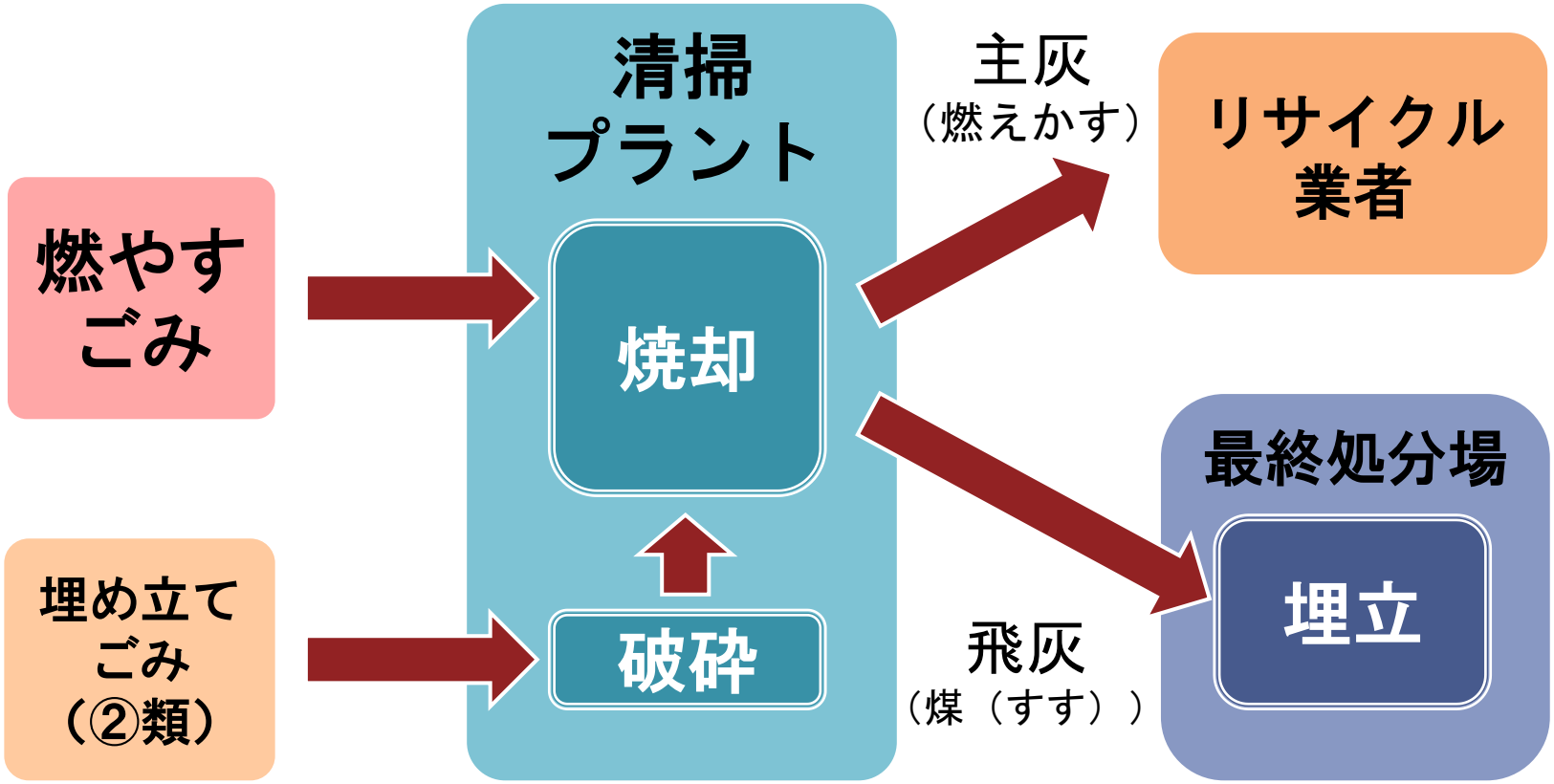
ごみ排出量削減の目標 ②

◆年間ごみ排出量（事業系）

年度		H21		H32（目標）
ごみ排出量（t）	燃やすごみ	19,885	10%削減	17,897
	埋め立てごみ	404		364
	資源（集団回収除く）	27		24
	プラスチックごみ	231		208
	計	20,547		18,493

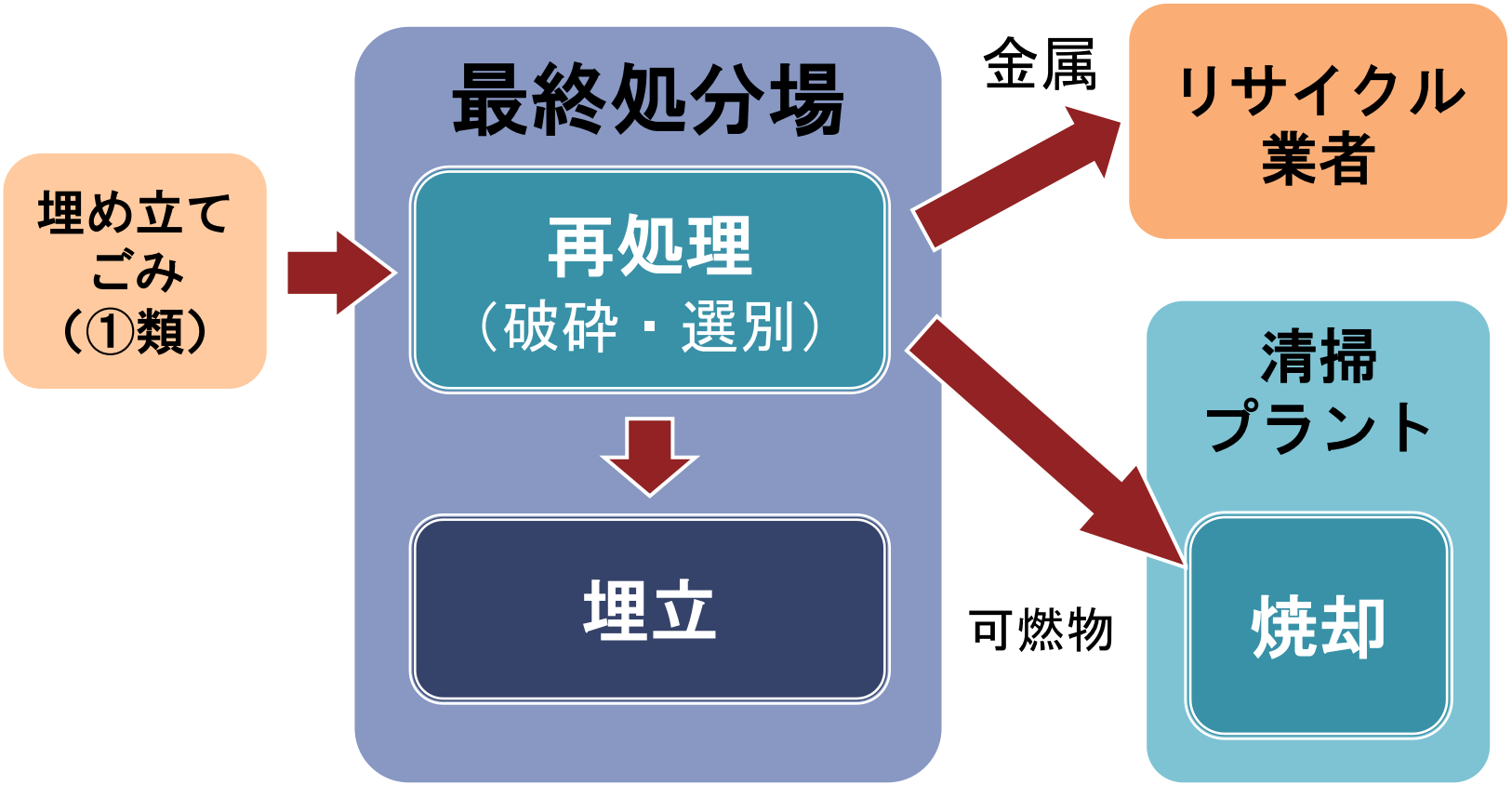
ごみ処理の流れ ①

◆燃やすごみ



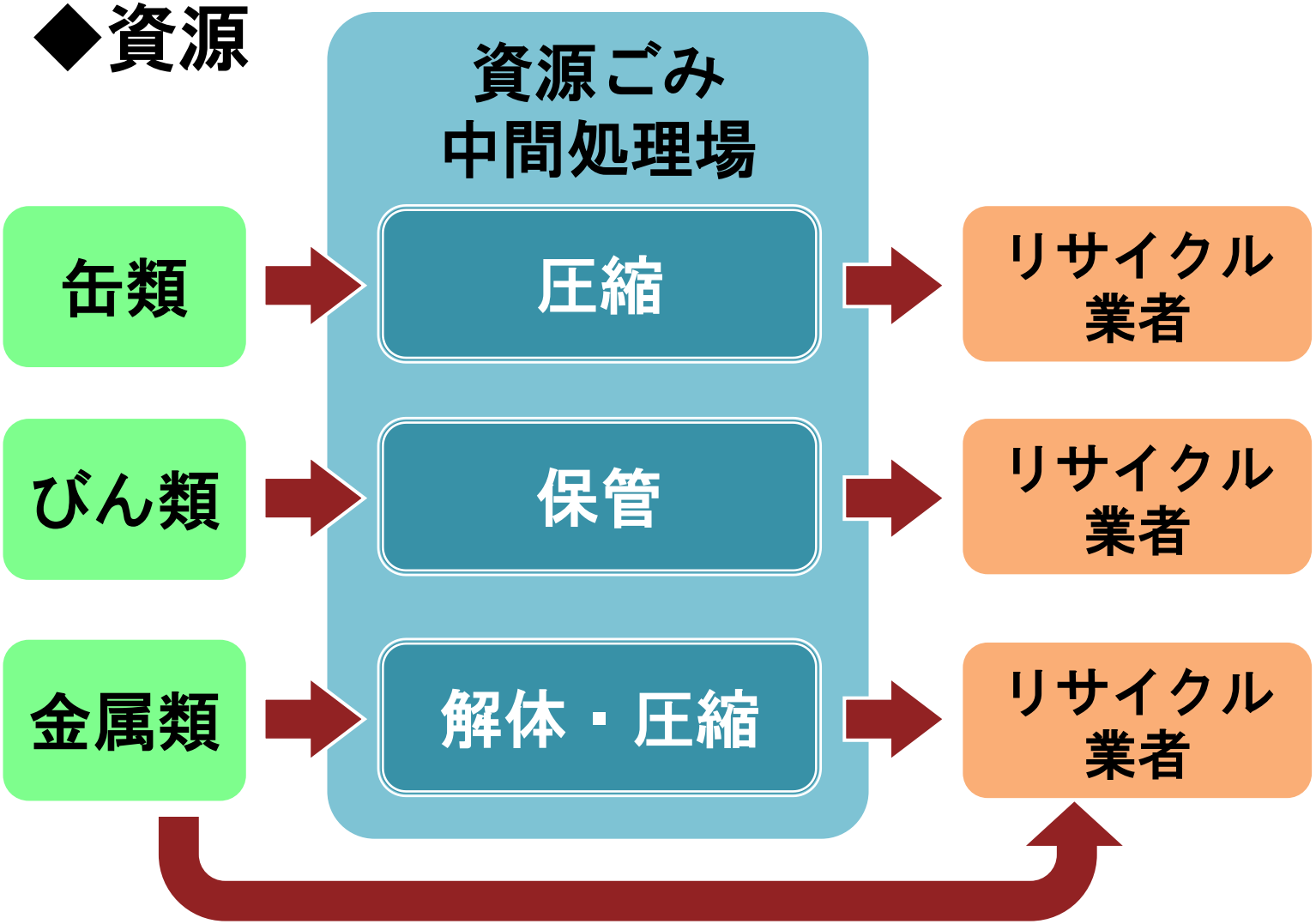
ごみ処理の流れ ②

◆埋め立てごみ



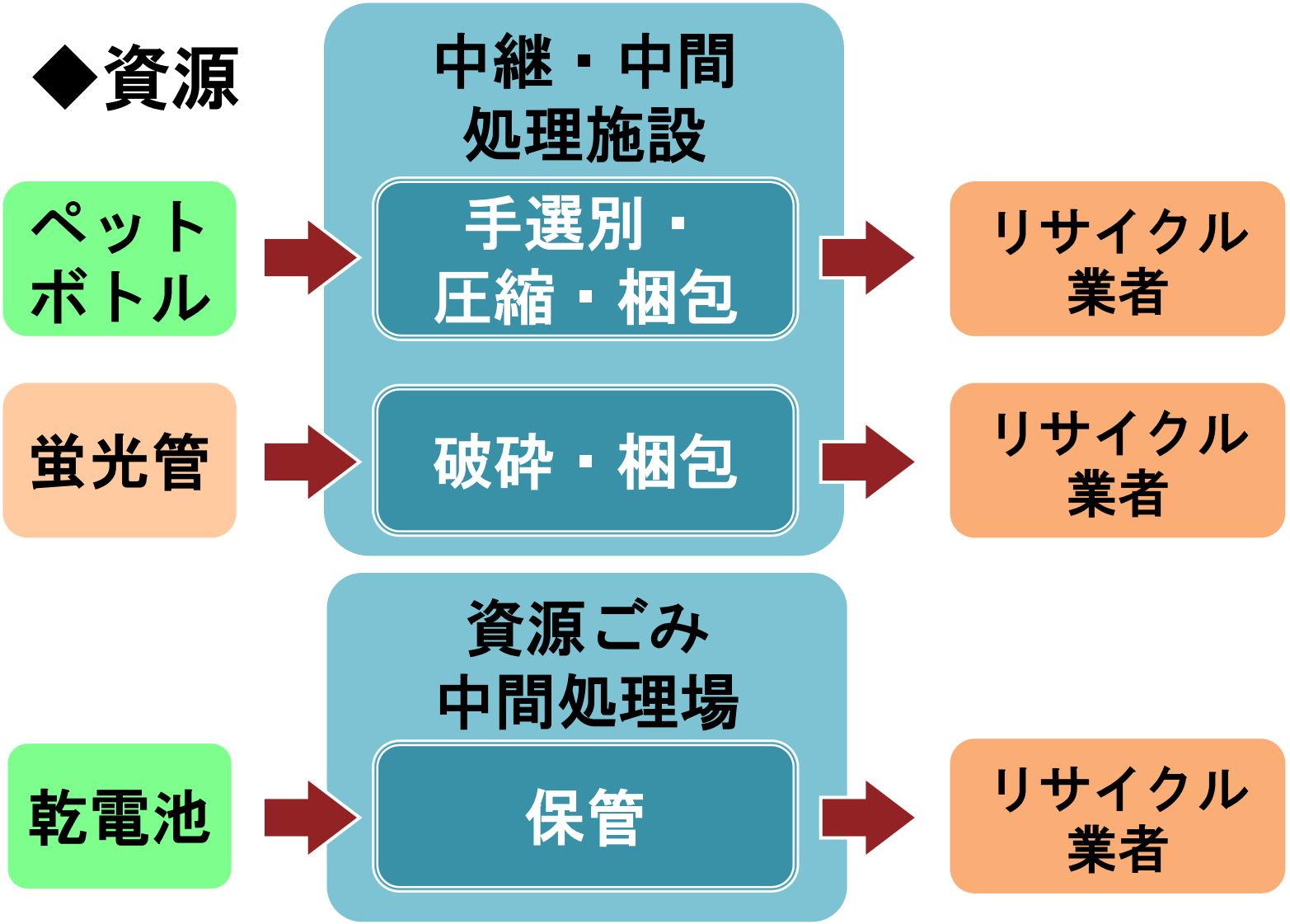
ごみ処理の流れ ③

◆資源



ごみ処理の流れ ④

◆資源

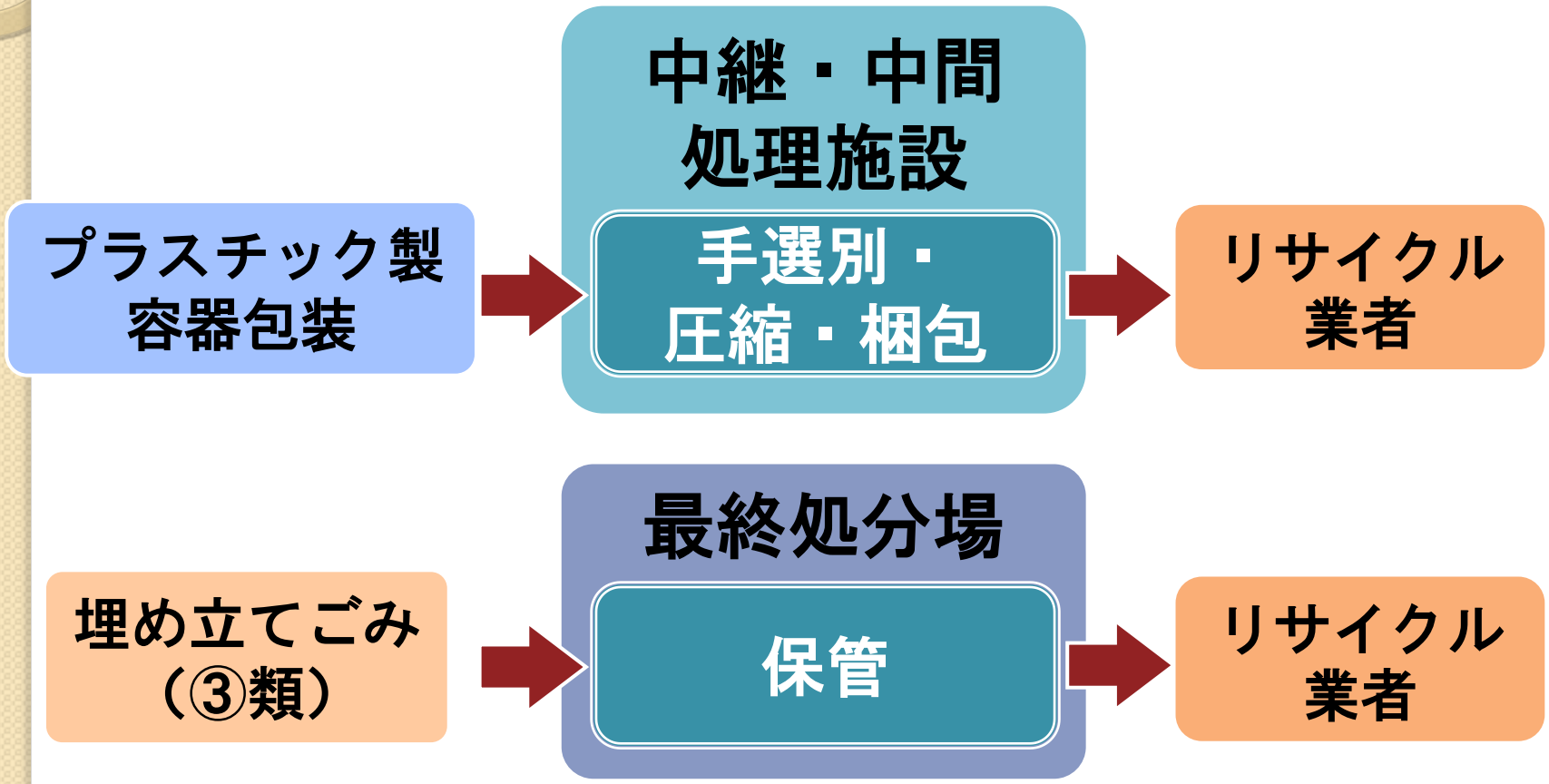

中継・中間
処理施設
ペット
ボトル
手選別・
圧縮・梱包
リサイクル
業者
蛍光管
破砕・梱包
リサイクル
業者
資源ごみ
中間処理場
乾電池
保管
リサイクル
業者

ごみ処理の流れ ⑤

◆資源

ごみ処理の流れ ⑥

◆プラスチック



５　施設整備に向けた課題

市が考える課題

１　エネルギーの有効利用

２　事業方式（維持、管理、運営含む）

３　分別と市民負担の軽減

４　３Ｒの推進（ごみ減量）

５　環境拠点としての位置付け

エネルギーの有効利用

＜前提＞

　新施設では焼却した熱を発電、温熱利用等により最大限有効利用する。

＜検討課題＞

◆ 熱エネルギーの確保のため、埋め立てごみ③類として外部処理しているプラスチック類等を新施設で焼却。

事業方式（維持、管理、運営含む）

＜前提＞

　周辺住民との信頼関係の下、新しい技術の導入を検討し安心・安全を確保する。

＜検討課題＞

◆ 建設時のみではなく、維持、管理、運営を含めたトータルでの費用対効果を検証し、最適な事業手法を探る。

分別と市民負担の軽減

＜前提＞

　市民、事業者、行政の協働の下、３Ｒを推進する。

＜検討課題＞

◆ 新しい技術による機械選別等の導入を検討し、埋め立てごみの分別排出の負担軽減。

◆ 新たなリサイクル品目や生活様式の多様化への対応として拠点回収を検討。

３Ｒの推進（ごみ減量）

＜前提＞

一般廃棄物処理基本計画のもと、３Ｒを推進しごみの減量化を図る。

３Ｒ
リデュース
⇒ 排出抑制
リユース
⇒ 再使用
リサイクル
⇒ 再資源化

＜検討課題＞

◆ 一般廃棄物処理基本計画で掲げる目標の達成に寄与できる施設のあり方。

◆ リサイクル、適正処理のみにとどまらず、３Ｒに関する啓発、学習の場としての施設。

環境拠点としての位置付け

＜前提＞

ごみ処理施設としてのみではなく、３Ｒ推進の拠点として周辺環境と共に整備。

↓

＜検討課題＞

◆ 施設見学者への対応や廃棄物からの再生品展示等、環境学習拠点としての位置付け。

◆ エネルギーを活用した還元施設の整備等、周辺環境も含めエコ化を推進することで、迷惑施設のイメージからの脱却。

施設見学について

＜次回の施設見学＞

　他自治体の先進施設をご覧いただきます。

　現在、日帰りで行程を組める範囲で当市と周辺環境や施設整備の状況が参考と出来る施設を事務局で検討しています。

＜本日午後の施設見学＞

沼津市の処理施設の現状をご覧いただきます。

◆ 清掃プラント（焼却）

◆ 資源ごみ中間処理場（缶の圧縮等）

◆ 中継・中間処理施設

　（プラスチック製容器包装、ペットボトル）

ご清聴ありがとうございました

沼津市のごみ処理の将来のため、
新たな中間処理施設の整備に向け、
ご検討のほど、よろしくお願い
申し上げます。